

産学連携による実践型人材育成事業 ー長期インターンシップ・プログラム開発ー
最終評価結果

大 学 名	岡山大学
プロジェクト名称	エンジニアリングデザイン能力の養成プラン ー瀬戸内圏企業と協同した実践的キャリア形成ー
事業責任者	大学院自然科学研究科・副研究科長 五福 明夫

事業概要

本事業は、産業界で活躍できる実践的なキャリアを備えた学生を育成することを目的とし、①コミュニケーション・交渉・折衝力、②課題形成および解決能力、③コスト・納期意識、④開発技術の権利化意識、⑤技術者倫理観の5項目を育成目標としている。自然科学研究科博士課程(主に前期)に所属している工学系の学生が、分野の異なる者同士でグループを作り、瀬戸内地域の企業と現実問題に取組み、企業周辺に設置したサテライト・ラボを拠点にして、企業技術者と一緒に課題解決を目指す取組である。



詳細については、http://www.mif.sys.okayama-u.ac.jp/~engdesign_web/ を参照。

最終評価結果

(総合評価) S : 所期の計画を超えた取組が行われた

コメント

《優れた点》

- 瀬戸内地域にある企業との密接な連携により、従来の博士課程前期・後期に不足している実践的スキルに触れる機会を、長期インターンシップ・プログラムによって創出することで、実践的キャリア形成教育として実現した点は高く評価できる。
- 本プログラムの趣旨、目標設定、実施手法がよく整理され、学生・派遣先相互の評価体制も適切で、長期インターンシップ・プログラムのモデルケースの一つと言える。
- 企業周辺に設置したインターンシップサテライトラボを拠点とする企業インターンシップは、学生・企業両者にとって有用な取組であると言える点が優れている。
- 学内での理解を得るための努力がなされており、多くの教員が参加し、きめ細かくケアしている点など良く工夫されている。
- 学生および演習企業指導者等による評価がきめ細かく実施されるとともに、5年間で取組が進化してきている点が評価できる。

《今後に期待する点》

- 市場のグローバル化、アジア地域でのものづくり拠点の急速な発展、企業の社会的責任への要求の増加などの経済社会的な変化が進んでいる。今後は、カリキュラム内容に社会の変化をタイミングよく取り込んでいく柔軟な姿勢や、派遣先企業の地域拡大を期待したい。
- サテライト・ラボでの実質的なインターンシップ期間を延長させ、より有効なプログラムに成長させていくことが望ましい。
- 海外インターンシップも含めたグローバル展開も指針に加えて欲しい。